

『住人叶色』フィールドワーク ～【訪問先】の活動の様子と生徒の感想～

守山北高校1年生 総合的な探究の時間「もりきた学」

2024年12月12日,13日,19日 実施

【びわこ地球市民の森(平塚英史様)】



- ・地球温暖化や森林の減少が問題となっている中で、森に対して興味や関心を持つことで、解決につながるのだと思った。
- ・環境を守るためにどのようなことに取り組んでいるかを学んだ。環境を守るために、自分たちでもできることを知ることができた。間伐体験やキーホルダー作りが楽しかった。
- ・自然環境を守ることがもちろん、人と自然の関わるきっかけになろうとしておられるのだなと思いました。

【よってこファーム (川井玲央人様)】



- ・購入した人が「おいしい」と感じてたくさん買ってもらえるように、様々なことを工夫していて、すごいなと思いました。私たちの暮らしを支えているのが、農業だと思いました。
- ・農業には興味があって、楽しそうだなと思って訪問を希望しました。でも実際に体験してみると、楽しいだけでなく、特に大変そうだなと思ったのが、冬、夏、どんなに暑くても寒くても、エアコンなどが使えないことです。いつもスーパーに並んでいる野菜などを当たり前を買っているけど、こうやって手作業で毎日してくださる方のおかげなんだなと改めて感じました。すごく丁寧に教えてくださり、みんなで楽しく協力し取り組むことが出来ました。
- ・どれだけ困難なことでも、工夫することにより、少しずつ改善していく。それを繰り返し行っていくことで、乗り越えることができるというお話し印象に残りました。

【社会福祉法人ゆいの里（廣田岳尚様）】



- ・高齢者には何かをする前にしっかり声をかけてあげることが大切だということを知った。たくさんの職員で力を合わせて働いている姿がとても素敵だった。支える、支えられる側と考えずに人対人と考えて高齢者と関わっていけるようにしたいと思った。
- ・自分が思っていた介護の印象とは全く違って、今はロボットなどが介護をお手伝いしていてすごく進化していた。介護することの大変さも感じたが、介護している人全員が笑顔で介護しておられるのを見て、驚いた。
- ・ゆいの里は介護施設だと思っていたけど、地域の人でも地域外の人でも誰でも来て良い施設だということでした。誰でも来てもいいというのは、人と人とのつながりを増やすためだということがわかりました。
- ・わたしが一番頭に残っているのは、尊厳を守り能力に応じて自立した生活を営んでもらうこと。高齢者になってもできることはあるから、その能力は使うという意味を学べてよかった。
- ・死と隣り合わせの職業であることを知った。介護の必要性や、高齢者の方と関わるうえでの大切なことなど、たくさん知ることができで、考えが深まった。

【佐川美術館（藤井康憲様）】



- ・学芸員の仕事を詳しく知ることができた。岩絵の具、水彩絵の具、えんぴつなどで光の量を変えて展示する、作品に適した温度や湿度があることなど、作品の管理に色々な工夫がされていた。
- ・美術館を支える大切な存在だということがわかりました。普段、美術館の中で働く人のことを考えたことがなかったので、考えや思いを持って働くということが大事だと知ることができて良かったです。
- ・やりがいは、人に伝えて楽しいこと。多くの人に美術品の良さを伝えたい、趣味を仕事にできたと話されたことが印象に残った。人と会話するのが好きだから、作品を通していろんな人と話したい、自分の話を聞きに来られるファンを増やしたいと聞いた。
- ・行ってみると意外に面白かったので、また行ってみたい。また違う形のコラボを見てみたい。

【キヨシ商会（南平喜代和様）】



- ・最初は、車や自転車、バイクを販売、サービスする場所だけだと思っていたが、仕事に対する想いや、日頃からお客様のために考えて行動するという姿に感心しました。良い商品を作るだけではなくて、お客様ひとり一人のことを大事に考えることが、大切だと知りました。
- ・室内でもできる自転車のトレーニングマシンにも試乗車できて、貴重な体験をさせてもらいました。さらには、自分の自転車の不具合のある場所を修理してもらったりして、充実したフィールドワークだったと思います。
- ・勉強しておくこと、趣味を仕事にするのではなく、仕事で得たお金で趣味を行うのが理想的だというお話しに、とても考えさせられました。自分の将来のことをあまり考えていなかったけれど、話を聞いてしっかり考えようと思いました。
- ・良い商品だけでは、良い結果を招かないが、それ以上に、お客様に寄り添って提供することで、互いが良い関係を築くことができることができるというお話しが、印象に残りました。

【鉄人工房マツヤ（松谷悦男様）】



- ・今のマツヤがあるのは、オリジナルプリントをセールスした方との出会ったおかげと聞いて、出会いを大切にしていこうと思った。
- ・今回の活動で、店の方の貴重な体験談や大切なことを聞きました。その中で特に印象に残ったことは、ある人との出会いによって人生が変わったということです。
- ・大変な思いをしながら今があるのだなと感じた。お店に来る人の笑顔を見て、本当に愛されているんだなと思いました。お客さんにメリットを与えられることが大切だと思いました。

【守山市環境コミュニケーター（武田みゆき様）】



- ・琵琶湖の現状や固有種についての説明が分かりやすかった。今回フィールドワークに行ったおかげで琵琶湖の良さが実感出来て良かったです。
- ・琵琶湖に行って、普段見れないところを見て、砂のところにカモの足跡があたり、大きな根っこのある木など、いろんな発見があった。武田さんのお話を聞いて、改めて琵琶湖の大切さや美しさが分かったし、気付けた。普段見ていない所をみたりと新しい発見が多くあり良かったし楽しかった
- ・琵琶湖のことをたくさん話してもらった。琵琶湖に実際に入り、固有種を探したりして楽しかった。この先で大事なことも話してもらったが、その中の、「失敗か成功じゃない、チャレンジすることに意味がある」という言葉が心にきたから、これを自分の中で大事にしていこうと思った。楽しかったし貴重な経験になった。

【井入農園（井入吉信様）】



- ・野菜やハーブをどのような思いで育てているのか、大切にしていることを聞いて、農家さんは愛情を込めて育てているんだと思いました。ハーブのビニールハウスの中に入ると、いろいろなハーブの匂いがして、とても落ち着くにおいだなと思いました。
- ・色々な工夫をしたことで、ホテルと提携できたり、シェフに認めてもらったり、他の農園を監修したり、商品開発につながったと聞いて、やりがいがある仕事なんだと思った。
- ・エディブルフラワーは草の味がするのかなと思ってたけど、パンジーはあまり味がなくて、あじさいの白い小さいような花は、キャベツの芯のような味がした。農業は単純作業の繰り返しだと思っていたけど、実際に話を聞いてみると、ひとつ一つの作業にすごくこだわりがあった。
- ・何かを始めるときは、まず調べて、育てるのも命を吹き込むということだから、責任を持っていなければならないと聞いた。やってみることが大切だと分かった。

【Vita（出口湧己様）】



- ・すごく大変な分、やりがいのある仕事で、若い世代の人は少ないけれど、将来的には農業の面白さに気づき、農業をやってくれる人が増えればいいなと思った。
- ・好きなことを仕事にすることが、社会人になっても人生を楽しみながら生きるために大事なことだと思った。
- ・普通に自分たちだけの野菜をつくるのではなく、働き場所を提供したり、他の人と一緒に何かを作ったり、周りの人も笑顔になってもらえるような活動をされていて、すごいなと思った。
- ・農業には向き不向きがないように、何事にも挑戦する心を持ち、勉強は大人になってから後悔しないように、今しっかりとやっておくべきだと思った。

【はすねだこども園（川田久美子様）】



- ・園内の見学をしたときに、0．1．2歳と3・4．5歳の外で遊ぶところが別で工夫されていると思いました。保育園や幼稚園などは、先生がいないと成り立たないとずっと思っていたけど、今日お話を聞いて、子どもがいて成り立っているんだと改めて感じました。大変＝やりがい、と聞いたときに、すごいと思いました。
- ・子どもを預かるだけではなくて、目標や理念があることが分かりました。子どもたちは分数や体積など授業で習うようなことを、遊びを通して学んでいるということに、驚きました。また、友達との関わり方など、人として大切なことも学んでいると知りました。
- ・僕も自分の好きなことを生かせるような仕事をしたいと思いました。本当に「大変＝やりがい」と言える人がいるんだと思いました。
- ・地域の人々とながることが大切で、つながることで何かあったとき助け合えるというのがいいなと思いました。

【BIWAKO DAUGHTERS（中川知美様）】



- ・琵琶湖の漁業について詳しく知ることができた。私は今まであまり琵琶湖の魚料理を食べたことがなかったが、中川さんの琵琶湖に対する想いを聞いて、積極的に口にしてみたいと思った。最後に中川さんがおっしゃっていた「経験や失敗は将来の財産となる」という言葉を大切にしたい。
- ・お客さんがどう美味しく食べることができるかと考えて料理を作っている、とりあえず挑戦すると話されていて、とてもかっこいいと思った。
- ・最近のことだけでなく昔から伝統として続いていることを知れてよかった。自分が今まで住んできた所なのに、全然知らないことも多くあった。
- ・琵琶湖の魚にも、フナだけではなく、鮎など様々な種類があり、滋賀県の郷土料理である、鮎寿司の米を発酵させる大変さや重い石を全体的に乗せると鮎寿司が美味しくなるという工夫、琵琶湖の魚を通して世界や地域の人々との繋がりがあるということを知ることができて良かったと思いました。

【びわ湖パール（廣瀬香織様）】



- ・びわ湖パールの母貝（真珠ができる貝）などを見たりしました。貝に傷があっても使うことができ、形や色もいろんな種類のものがあると聞きました。廣瀬さんがどのような思いで働いておられるのかを知ることができました。
- ・琵琶湖がどのようにできたか、琵琶湖で真珠は 1930 年ごろから作られていたと聞いた。準備期間が 3 年、作り終わるまでに 3 年かかる。すごく大変だと思った。
- ・自分がやりたい事やしている事で、やりがいや目標を持っているということは、とても大切に良いことだと思いました。

生徒用ワークシート
(取材内容の記録)

